

出題のねらいと正答例・正答率一覧表

問題番号	小問番号	出題のねらい	正答例	観点	正答率 (%)
【1】	①	(2位数) + (1位数) の計算をすることができる。	94	知技	87
	②	(2位数) - (1位数) の計算をすることができる。	46	知技	80
	③	(2位数) + (2位数) の筆算をすることができる。	70	知技	88
	④	(2位数) - (2位数) の筆算をすることができる。	34	知技	72
【2】	⑤	長さの計算をすることができる。	8 (cm) 1 (mm) (完答)	知技	91
	⑥		2 (cm)	知技	78
【3】	⑦	ある時刻の○分後の時刻を求めることができる。	2、20 (完答)	知技	53
	⑧	ある時刻からある時刻までの時間を求めることができる。	4	知技	67
【4】	⑨	1000までの数の構成について理解している。	897、899、900 (完答)	知技	85
	⑩		860、890、900 (完答)	知技	83
【5】	⑪	逆思考の問題場面にあった図を選ぶことができる。	㉑	思	60
	⑫	逆思考の問題場面にあった式を考えている。	36-12=24、24 (人) (完答)	思	64
【6】	⑬	たし算の筆算の間違いを説明することができる。	(くり) 上 (がり)、 1、6 (完答)	思	70
	⑭	ひき算の筆算の間違いを説明することができる。	(くり) 下 (がり)、 6、2 (完答)	思	64
【7】	⑮	いろいろな図形の構成について考えている。	8	思	71
	⑯		8	思	79
【8】	⑰	かさくらの仕方の間違いを説明することができる。	(例) 同じ大きさのコップで比べていない。 ※コップに入るかさの違いについて触れた記述があれば○	思	66
【9】 ☆	⑱	順序数と集合数の表し方や違いをもとにして、日常生活や社会の事象に活用している。	18-7に○	思活	70
	⑲		18-7+1 または 11+1	思活	9
	⑳		前から10番目の10と後ろから6番目の6を足すと、自分を2回数えたことになるから。 (式) 10+6-1=15	思活	16
思活	「思考・判断・表現」を調べる(学んだことを日常生活や社会の事象に活用する)問題(☆マーク)				平均
思	「思考・判断・表現」を調べる問題				68
知技	「知識・技能」を調べる問題				

算数・数学実態調査

小学校	ばん
-----	----

【1】 計算を しましょう。

(1)  $87 + 7 =$   ①

(2)  $54 - 8 =$   ②

(3) 
$$\begin{array}{r} 43 \\ + 27 \\ \hline \end{array}$$
  ③

(4) 
$$\begin{array}{r} 73 \\ - 39 \\ \hline \end{array}$$
  ④

【2】 長さの 計算を しましょう。

(1)  $5\text{ cm } 1\text{ mm} + 3\text{ cm} =$   cm  mm ⑤

(2)  $1\text{ cm } 8\text{ mm} + 2\text{ mm} =$   cm ⑥

【3】 時刻と 時間について 答えましょう。

(1) いま 午後1時50分です。30分あとの 時刻を かきましょう。



午後  時  分 ⑦

(2) 家を出てから 家に 帰るまでの 時間は どれだけですか。

家を出る



午前11時



家に帰る



午後3時

時間 ⑧

【4】  に あてはまる <sup>かず</sup> 数を かきましょう。

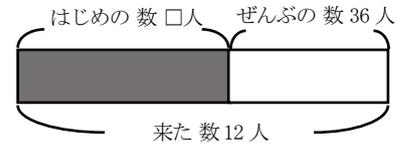
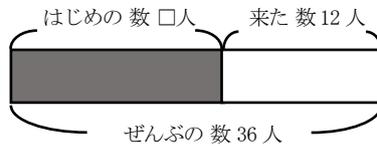
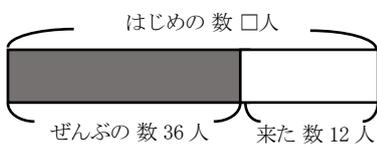
(1)  $895 - 896 - \square - 898 - \square - \square$  ⑨

(2)  $850 - \square - 870 - 880 - \square - \square$  ⑩

【5】 つぎの もんだいに こたえましょう。

子どもが あそんで いました。  
 ともだちが 12人 <sup>き</sup> 来たので、36人になりました。  
 はじめは 何人 いましたか。

(1) 正しい <sup>ず</sup> 図を えらんで ( ) に ○を つけましょう。



- ① ( )      ② ( )      ③ ( )      ④ ( )      ⑤ ( )      ⑥ ( )      ⑦ ( )      ⑧ ( )      ⑨ ( )      ⑩ ( )

(2) しきと こたえを かきましょう。

(しき)

(こたえ) 人

【6】 かいとさんは つぎの <sup>けいさん</sup> 計算の まちがいを 下のよう に せつめい しています。  に あてはまる <sup>ことば</sup> 言葉や <sup>かず</sup> 数を かきましょう。

$$\begin{array}{r} 24 \\ + 39 \\ \hline 53 \end{array}$$

くり がり を わすれています。  
 十のくらは、  + 2 + 3 =  に なります。

$$\begin{array}{r} 76 \\ - 48 \\ \hline 38 \end{array}$$

くり がり を わすれています。  
 十のくらは、  - 4 =  に なります。

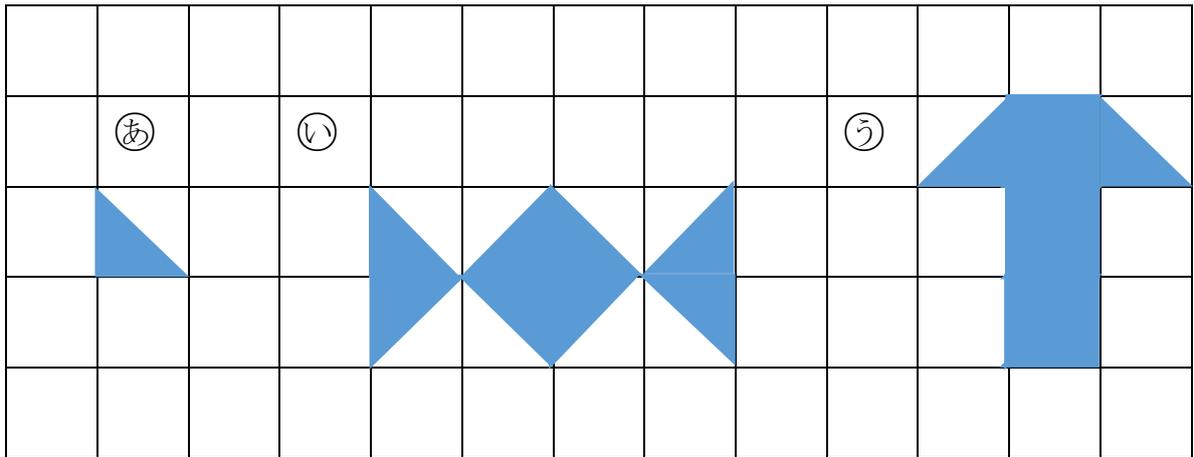


かいとさん

⑬

⑭

【7】 いろいろたを つかって いろいろな <sup>かたち</sup>形を つくります。㉞の  を <sup>なん</sup>何まい つかうと ㉝や ㉟の 形が できるか こたえましょう。



㉝  まい ㉞  まい ㉟

【8】 こうじさんと まゆこさんが <sup>でんわ</sup>電話で どちらの <sup>すい</sup>水とうの ほうが <sup>おお</sup>多く <sup>ちや</sup>お茶が <sup>はな</sup>入るかを <sup>はな</sup>話して います。 まゆこさんの <sup>かた</sup>くらべ方が まちがえて いる わけを せつめいしましょう。

ぼくの 水とうは  
コップ4はい分  
お茶が 入るよ。



わたしの 水とうは  
コップ5はい分  
お茶が 入るよ。



それなら わたしの  
水とうの ほうが 多く  
お茶が 入るね。

〈せつめい〉

【9】 ☆ つぎの もんだいに こたえましょう。

ゆうなさんの クラスは みんなで 18人<sup>にん</sup> います。  
こんど 1人ずつ さく文の はっぴょうを します。  
ゆうなさんは 後ろ<sup>うし</sup>から 7ばんめに きまりました。

(1) ゆうなさんの 前<sup>まえ</sup>に はっぴょうする 人は 何人<sup>なん</sup> いますか。  
こたえを もとめる しきを えらんで、( ) に ○を つけましょう。

- ( )  $18 + 7$                       ( )  $18 + 7 + 1$   
( )  $18 - 7 + 1$                       ( )  $18 - 7$                       ⑱

(2) ゆうなさんは 前から 何ばんめに はっぴょうを しますか。こたえを  
もとめる しきを かきましょう。

(しき)

⑲

(3) はっぴょうの 日に 何人か お休みを しました。  
はっぴょうする じゅんで 1れつに ならばと、ゆうなさんは  
前<sup>まえ</sup>から 10ばんめで、後ろ<sup>うし</sup>から 6ばんめに なりました。

みんなで 何人 ならんで いるかを りくさんが せつめいしています。

ゆうなさんは 前<sup>まえ</sup>から 10ばんめで、後ろ<sup>うし</sup>から  
6ばんめなので  $10 + 6 = 16$  で、16人です。



りくさん

りくさんの せつめいは 正しくありません。その わけを ことばや  
しき、<sup>ず</sup>図を つかって せつめいしましょう。

〈せつめい〉

⑳

◎ 調査内容の分析と考察と対策について

1 観点別による全体の傾向と対策（対象児童 2年 369人）

【思考・判断・表現（学んだことを日常生活や社会の事象に活用する問題☆）】

問題【9】の⑱⑳について

解答の傾向（解答数÷全体数×100 下線は正答 以下同様）

⑱ 18-7+1 または 11+1 (9%) 18-7 (65%) 18+7 (3%) 無答 (13%)

⑳ ゆうなさんを2回数えたことが説明されている(式) 10+6-1=15 (16%)

ゆうなさんを2回数えたことに触れていない (34%) 図での説明が不十分 (8%)

16+6+1 (5%) 無答 (33%)

**分析・考察・対策** ⑱⑳は、順序数と集合数の表し方や違いを基にして、数理的に捉えて処理したものを日常生活や社会の事象に活用することができているかを調べる問題である。

⑱の誤答を見ると、「18-7」と答えた児童が65%いた。これは、「後ろから7番目」という順序数を基にして、「前には11人いる」ことは理解できた(⑳の正答率70%)が、自分の数を足して「前から(11+1)番目」と、再び順序数に置き換えて考えることができなかつたからであると考え。また、⑳の誤答を見ると、「自分を2回数えている」ことに気付くことができていない解答が34%ある。これは、問題場面を想像することができていないからであると考え。

【9】☆ つぎの もんだいに こたえましょう。

ゆうなさんの クラスは みんなで 18人 います。  
 こんど 1人ずつ さく文の はっぴようを します。  
 ゆうなさんは 後ろから 7ばんめに きまりました。

⑱ ゆうなさんは 前から 何ばんめに はっぴようを しますか。こたえを もとめる しきを かきましょう。

(しき)

⑳ はっぴようの日に 何人か お休みをしました。 はっぴようするじゅんで 1れつに ならぶと、ゆうなさんは 前から 10ばんめで、後ろから 6ばんめになりました。

みんなで 何人 ならんで いるかを りくさんが せつめいしています。  
 ゆうなさんは 前から 10ばんめで、後ろから 6ばんめなので  $10+6=16$  で、16人です。

りくさんの せつめいは 正しくありません。その おけを ことばやしき、図をつかって せつめいしましょう。

(せつめい)

そこで、学んだことを日常生活や社会の事象に活用できるようにするためには、問題設定を工夫し、日常生活や社会の事象を意識できる学習に取り組みさせることが大切だと考える。(指導事例参照)

【思考・判断・表現】

問題【7】の⑯について

解答の傾向

⑯ 8 (79%) 5 (6%) 2 (4%) 無答 (4%)

**分析・考察・対策** ⑯は、いろいろな図形の構成について考える問題である。

令和4年度の類題の正答率と比較すると23ポイントも上がり、令和3年度の類題と同等の数値を示している。誤答を見ると、解答に5と記述した児童が6%いることから、「四角」(方眼1マス分)を1枚分と見てしまい、三角形に分解できていない児童がいると考える。これは、令和4年度でも、同様の傾向が見られた。これらのことから、児童は「四角」で図形の構成を捉えがちであり、今年度は令和4年度に比べて「四角」を捉えやすい図形であったため、その傾向が顕著に表れたと考える。

そこで、図形の構成に気付きやすくするために複数の色の色板で形作りをさせた後、図形に含まれる「三角」や「四角」を見付ける活動を取り入れる。さらに、見付けた「三角」や「四角」の大きさに着目させ、「小さな三角」(方眼1マス分の半分)、「大きな三角」(方眼1マス分)などと名前を付けさせることで、図形を様々な形に分解できることを実感できるようにすることが大切であると考え。

【知識・技能】

問題【2】の⑤⑥について

解答の傾向

- ⑤ 8 cm 1 mm (91%)    5 cm 4 mm (2%)    2 cm 1 mm (1%)    51 cm 3 mm (1%)    無答 (3%)  
 ⑥ 2 cm (78%)    1 cm (8%)    11 cm (4%)    10 cm (3%)    20 cm (1%)    無答 (4%)

分析・考察・対策 ⑤⑥は、長さの計算をすることができるかを調べる問題である。

⑤では、同じ単位に着目して正しく計算できている児童が9割以上いたことに対し、⑥では、正答率

が13ポイント下がっている。⑥の誤答を見ると、11 cmや10 cmと解答している児童が合わせて7%いた。これは、8 mm + 2 mmで得られた10 mmを1 cmに変換することができていないためであると考えられる。

そこで、形式的に長さの計算をするだけでなく、式にある直線をつなげたり、並べたりして児童に示し、実際に、合わせた長さや長さの違いを測る活動を行うことで、cmだけで計算の答えが出せることを理解させることができると考える。

【2】 長さの <sup>けいさん</sup>計算を しましょう。

(1) 5 c m 1 m m + 3 c m =  c m  m m      ⑤

(2) 1 c m 8 m m + 2 m m =  c m      ⑥

問題【3】の⑦について

解答の傾向

- ⑦ 2時20分 (53%)    1時50分 (9%)    1時20分 (7%)    2時50分 (3%)  
 1時80分 (2%)    1時55分 (1%)    2時0分 (1%)    2時5分 (1%)  
 2時15分 (1%)    2時25分 (1%)    2時40分 (1%)    無答 (6%)

分析・考察・対策 ⑦はある時刻の○分後の時刻を考える問題である。

昨年度は、午後1時45分の30分後の時刻を問う問題を出題し、正答率は52%であった。今年度は長針の位置を変えて出題したが、正

答率はほとんど変わらなかった。また、誤答を見ると、1時20分と答える児童が7%いた。これは、長針を正しく動かしているが、短針の動きまで考えられていないためだと考える。これらのことから、児童にとっては、長針の位置を変えて出題しても長針は正しく動かせるが、長針と短針の動きを関連させて考えることに困難さがあることが分かった。

そこで、模型の時計を使って長針と短針の動きを視覚的に捉えさせる活動を行うことが重要であると考えられる。「長針が○分動くと、短針はどこまで動くか」を問い、模型の時計を使って確認する活動を繰り返し行うことで、長針が1周する間に短針も1つ進むことに気付き、長針と短針の動きを関連させて考えることができるようになると思われる。(指導事例参照)

(1) いま <sup>ごご</sup>午後1時<sup>びん</sup>50分です。30分あとの <sup>じ</sup>時<sup>こく</sup>くを <sup>か</sup>か<sup>ま</sup>ま<sup>し</sup>し<sup>よ</sup>う。



午後	時	分	⑦
----	---	---	---

## 2 指導事例

### 【単元名 ものと ひとの かず】

#### ○ 問題設定を工夫し、日常生活や社会の事象を意識させる指導法

⑱⑳の調査から、日常生活や社会の事象を意識させるには、導入の場面で「算数を使えばできそう」と思えるような問題設定をするとよい。また、終末の場面では「今日の学習が使える場面は、他にありますか」と問い掛け、他の場面を考えさせるとよいと考える。

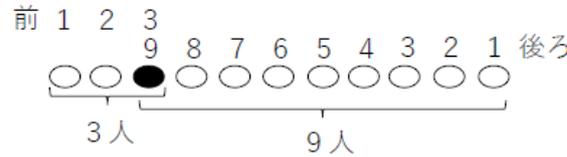
**【導入】** 問題：2年〇組では、一人ずつ作文の発表会をします。今日は前半チームの発表日です。ももかさんは前から3番目、後ろから9番目に決まりました。ももかさんのいる前半チームは、みんなで何人でしょうか。《問題設定の工夫》

みんなで並んだら人数が分かりそう！ 

じゃあ、後ろから9番目だから、9人いて… $3+9$ でいいのかな？

並ばなくても、計算できそうだよ！前から3番目だから、3人いるってことだよ？

自信がないから、〇図で確かめてみよう。これなら、並ばなくても分かりそう。



前 1 2 3 4 5 6 7 8 9 後ろ

3人 9人

**【終末】**

今日の学習が使える場面は、他にありますか。

あっ、 $3+9$ だと思ったけど、これだと自分を2回数えてることになるね！式は、 $3+9-1$ で答えは11人だね。図で表すと分かりやすい！

図をかいたら、式で考えるのも楽だね。

今度の生活科の発表会でも使える。

ラーメン屋さんに並んでる人数も分かりそうだね！

### 【単元名 時こくと時間】

#### ○ 長針と短針の動きを視覚的に捉えさせる指導法

⑦の調査から、長針が〇分進んだ時の短針の動きを模型の時計を操作しながら確認する活動に繰り返し取り組ませるとよいと考える。



今は1時です。長い針と短い針はどこにありますか。

長い針は12、短い針は1のところにあります。



長い針を30分動かして、1時30分にしました。短い針は今どこにありますか。

(模型の時計を動かして) 1と2の間にあります。



1時から長い針を60分動かすと、短い針はどこにありますか。

2のところにあります。そうか、長い針を60分動かして時計を一周する間に、短い針も少しずつ動いて、1から2へ動くんだね。

**(この後、別の時刻でも同様に30分後や1時間後の短針の位置を問い、模型の時計を操作しながら確認させるとよい。)**



今の時刻

→



30分後

→



1時間後



短い針が一つ分動いた！